

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和2年9月24日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670104746
法人名	医療法人愛人会 川島病院
事業所名	シルバープラザグループホーム愛
所在地	鹿児島県鹿児島市谷山中央一丁目4088番地14 (電話) 099-801-6470
自己評価作成日	令和2年8月1日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和2年9月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様それぞれの意思を尊重し、出来るだけ希望に応えられるように対応しています。5階にある事業所の周囲は区画整理中ですが、眼前に高架になった谷山駅を望むことも出来、時折走る列車の姿を見て楽しむことが出来ます。近隣には、公園など四季折々の花を觀賞する事が出来る環境が整い、涼を楽しむソーメン流しなどの外食や各月の催し等、非日常生活が感じられる活動にも力を入れ取り組んでいます。

階下には、母体病院である川島病院が併設しており、緊急事態にも対応でき、医師や看護師による助言ももらいやすい環境が整っています。

同じ5階には、菜園があり、四季の花々や野菜類も植えてあり楽しめる空間となっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、谷山駅に隣接した広い敷地に、法人母体の医療機関や介護医療院等があるビルの5階に平成30年1月に移設しており、眼下に谷山駅や周辺の商業施設等の街並みが、また、遠くには山並みや桜島等が望め、利便性が高く平穩に生活できる環境が整備されている。法人全体で情報の共有や協力体制が構築されており、職員の研修や防災訓練等を合同で実施している。

区画整理により新開発された地区で一般住宅が少なく、自治会の発足もこれからのことであるが、管理者及び職員は、谷山ふるさとまつりの見学や駅伝の応援、ボランティア及び高校生の実習の受け入れ、高齢者福祉に関する住民からの相談に助言する等、工夫しながら地域との交流に積極的に取り組んでいる。

管理者は、日頃の職員とのコミュニケーションの中で信頼関係や協力体制を構築しており、職員の意向や要望等の把握に努め、研修の実施やケアに関する助言・指導に取り組んで、サービスの向上を図っている。利用者のケアに関する記録簿を書きやすい書式に改善したり、勤務シフトの作成や外部研修の受講には、可能な限り本人の意向を反映するなど、働きやすい職場環境の整備に努めている。

階下の医療機関を殆んどの利用者がかかりつけ医としており、定期的な通院治療と週2回の看護師の派遣で利用者の健康管理が徹底されている。また、24時間医療連携体制も構築されて必要な医療が受けられており、利用者及び家族の安心に繋がっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	事業所内に運営規定である「人を愛し、人を慈しみ、人を敬う心」という理念を掲げ、職員一同が念頭に置いてそれを活かした支援を行っている。	法人の理念とホーム独自のケアの目標を各ユニットの廊下等に掲示し、意義を共有している。利用者の尊厳や意向を大切にしながら、理念に沿った支援の実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	現在谷山駅周辺は、区画整理が進み、谷山駅前に位置する当事業所の近辺に人家は少ない為、町内会が停止状態である。今後、町内会が再発足した暁には、声掛けを行いグループホームへの訪問をしていただけるように進める予定である。	ホームの周辺は一般住宅が少なく町内会の再発足もこれからであるが「谷山ふるさと祭り」や「健康祭り」に参加し、駅伝の応援等を行っている。新型コロナウイルスの感染予防に配慮して現在は外出による交流を自粛中であるが、平常時は家族及び友人知人の来訪、ボランティア（踊り、楽器演奏他）、高校生の実習等を積極的に受け入れ、日頃の散歩や買い物、通院時に地域の人々と会話する等、地域住民との交流に努めている。また、施設見学や高齢者福祉に関する相談にも適切に対応している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	家族が参加する運営推進会議、いきいき推進事業、高校生等のヘルパー実習の受け入れなどに力を注ぎ、地域に根付くことが出来るように努力している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に一回開催する旨を年度初めに予定表を、2週間前にはハガキや電話で連絡を行い、参加の声掛けを行っている。事業所の活動報告や家族同士の悩みごとの相談や助言など、家族的な役割も兼ねた有意義な話し合いの場としている。	家族、地域包括支援センター職員等が参加して定期的に開催し、利用者の現況や行事、ヒヤリハット事例等の報告を行い、委員からは利用者のケアに関する質問や意見等が出されている。毎回、数家族の出席が得られ、交流も図りながら熱心に意見交換しており、出された要望等は合同会議やユニット会議等で検討してサービスの向上に繋げている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護認定調査の際や運営推進会議時に行政職員と業務の連携を図っている。また、2ヶ月に一度谷山地区のグループホーム協議会で意見交換を行う等、日頃から市町村とは協力関係を築いている。	市担当者とは介護保険の更新時や各種報告書の提出、ホームの運営、利用者の状況に関わる相談等を行って、助言・指導を頂くなど協力関係を築いている。市主催の会合や研修会にも参加して、行政職員や他施設職員との意見や情報の交換等を行ってサービスの向上に活かしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内に安全管理委員会を設置し、グループホーム内の研修会を実施することで身体拘束をしないケアについて確認を行っている。言葉による拘束についても、職員同士で不適切な使い方をした時には注意をし合うようにしている。	身体拘束の廃止については利用契約書にも明記し、法人全体及びホーム独自の研修を計画的に実施して認識を共有している。日頃の業務の中や申し送り、ユニット会議等でケアを振り返り、身体拘束適正化委員会も運営推進会議に合わせて開催して、利用者の気持ちを尊重した拘束しないケアに取り組んでいる。不適切な言葉遣いには、その都度注意し合って改善を図り、外出したがる利用者には菜園への散歩に同行する等、見守りや寄り添いにより気持ちの安定に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内はもちろん、グループホーム内でも一切の拘束、虐待を禁止しており、ご家族が参加される運営推進会議、職員全体会議、ユニット会議、勉強会でもマニュアルを通して勉強し、高齢者虐待防止法に関する理解を周知するようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様の方が後見人制度を利用されている。個人の意思を尊重する為に、ご家族やご親戚、ご近所の方の助言・協力をして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に本人・ご家族を交え入所の説明を行い、理解・納得して頂いている。入所されてからも、運営推進会議や来所された時にご家族と連携を図り、本人の意思をお伝えし、納得をして頂けるように支援を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を事務所の前に設置し、随時利用者やご家族の意見・要望を受け入れる対応を行っている。また、運営推進会議を通して、ご家族の御意見・ご要望を伺い運営に反映させている。	利用者の思いや意見は日頃の会話や表情、所作等から理解に努め、家族の意見や要望等は運営推進会議や来訪時、電話での対話、意見箱の設置、毎月発行の「愛だより」で近況を伝え、家族の意見をもらう等、工夫して把握している。職員は出された内容を合同会議等で共有し、法人本部とも協議しながら改善を図っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の職員会議・ユニット会議、1日2回の申し送り等が出た意見や報告等を集約し、その都度改善を行い、今後の方針を提示し周知をしている。	管理者は日頃から気軽に意見が言い合える信頼関係を構築しており、ユニット会議や日頃の業務の中、定期の個人面談、日頃の個人的な相談等も受けて要望や意見を聞き取り、法人本部とも協議しながら改善に努めている。また、ケアへの助言やスキルアップを図る研修の実施に努め、ケアに関する記録簿を書きやすい書式に改善したり、勤務シフトには個人的事情や休日の希望等に配慮する等、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員のキャリアアップのための資格取得を促し、有資格者を増やすことで職場環境・条件の整備を行い職員の質の向上を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎月勉強会を開催し、疑問点や不安を解消できるようにしている。また、個々の質を上げて貰えるように、研修会の掲示・声かけを行い参加を促すようにしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>谷山地区のグループホーム協議会に参加し、他事業所との連携を図り、疑問点の解決や良いところを取り入れるように意見交換を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人・ご家族より入所に至った理由や希望を聞き取るようにしている。また、本人が安心して喜びを感じられる生活環境作りが出来るよう適時相談に応じている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時は、毎日近況を報告し、家族が困っていること不安に思っていることを聞き取るようにしている。また、毎月のご様子をお便りでお知らせをし、安心して頂けるようにしている。毎日の生活で変化があった際は、電話連絡するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所に際し、どのような生活を希望されているのか、それに対するサービス提供が可能かを見極め、ご家族と話し合いながら対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いを本人に寄り添った形で理解をし、個性を尊重しながら本人らしい生活が出来ているかを確認しながら支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>毎月1回発行されるお便りに担当者から状況報告を写真入りで送付している。ご家族からその報告に対し、質問等が出た場合は速やかに対応するようにしている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>住み慣れた家の近所の方やご家族との面会にも随時対応している。また、電話や手紙の取り次ぎを行うことで昔なじみの関係が途切れないようにしている。</p>	<p>入所時のアセスメントや日頃の利用者の会話、家族からの情報等で馴染みに関する情報を共有し、心身の状態や感染症予防に配慮しながら散歩や買い物、通院、外食、地域行事、一時帰宅等を家族と協力しながら取り組んでいる。家族や友人等の来訪時には、ゆっくり面談出来るように配慮し、電話・手紙の取り次ぎや「愛だより」で利用者の近況を伝える等、関係の継続に努めているが、現在は新型コロナウイルス感染症の予防で面会、外出等を自粛中である。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>ご利用者様同士で思いやりを持って触れ合えるように、レクリエーションやコミュニケーションを通じ、利用者同士が関わりを深め支えられる関係作りを支援している。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>病院へ入院、他施設へ入所された方にも面会に伺い、見慣れた人との関わりを絶やさないようにしている。必要に応じて、ご家族の心配や悩みも聞き取り、その都度対応している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始前に、本人の思いや暮らし方の希望を聞き取り、それを介護計画に取り入れ対応している。また、把握した情報を申し送りノートやカンファレンスを活用して共有して支援に繋げている。	利用者の思いを、日頃の会話やケア中で把握し、その人らしい暮らしを家族とも連携して取り組んでいる。全員での活動に加え、趣味（読書や漢字検定、計算ドリル他）や家事（台拭きや下膳等）の取り組みも利用者の習慣や残存機能に配慮しながら個別に支援し、それらの成果には達成感が得られるような言葉かけに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・ご家族から生活歴、生活環境を伺うなど情報収集している。また、馴染みの方やご近所の方の面会時に生活歴などを伺い支援に繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人から興味がある事を伺い、それを援助に活かすようにしている。随時、バイタルチェックを行い身体面の変化をいち早く把握するようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・ご家族の意向を中心に日々生活する中で得た情報を参考にして介護計画を作成している。モニタリングは、基本的に半年ごとや状態に変化があれば実施し、ユニット会議でも情報の共有を行うなどして、現状に即した計画を立てるようにしている。	本人・家族の意向を把握し、主治医の指示やユニット会議、モニタリング時の意見を基に、残存機能や生きがいに着目した利用者主体の介護計画を作成している。ケアの実施状況は業務日誌やバイタルチェック表等で情報を共有し、利用者の状況変化に応じて計画の見直しを行って改善に努めており、計画の内容は家族の理解を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別に支援記録・医療記録を作成している。日勤者から夜勤者、夜勤者から日勤者へと申し送りを行い、引継ぎに漏れないように確認し、利用者の支援を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人のニーズや新たな要望に対して対応できるように、援助内容・方法をその都度対応し、柔軟な支援を行い、ニーズの多様化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣に四季が感じられる公園があり、歴史資料館など公共施設も利用し、楽しみを持って安全で豊かな生活ができるよう取り組んでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	専門疾患に関しては、家族に情報提供を行い受診に繋げている。また、母体医療機関による往診や看護師による健康チェックを行っている。その都度の指示や助言は、申し送りノートに記載し、申し送り時に伝達し情報の共有を行っている。	利用者の病歴等を把握し、本人・家族が希望する医療機関での受診を支援しているが、殆んどの利用者が法人母体でもある協力医療機関を主治医としており、定期的な訪問診療や訪問看護が実施されている。他科受診は、家族やヘルパーステーションと協力して同行しており、病状や受診結果等は家族と密に連携を図っている。医療機関との24時間連携体制も構築されて利用者、家族の安心に繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体医療機関の院長が理事長である為、医療連携は非常に良好である。1カ月に2度主治医の訪問診療があり、1週間に2度看護師が訪問し、健康チェックを行い、指導・助言をもらい支援に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中は顔なじみである職員が、本人の様子観察を行うとともに、洗濯物の管理と必要品の補充を行うようにしている。状態の変化を看護師から聞き取りし、支援記録に記載し、申し送り時に伝達し情報の共有を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族に意向を確認し、看取り介護に対することを説明し、納得してもらっている。また、状態の急変時には、主治医より家族へ再度説明してもらうなどしている。	重度化や終末期の対応については「重度化した場合における対応に係る指針」を整備しており、入所時に本人や家族に説明して理解を得ている。利用者が重度化した時点で、主治医から病状が説明され、職員や関係者、家族は十分な話し合いを行って、可能な限り希望に添った支援を主治医や家族と協力して取り組んでいる。最終段階で医療機関への入院に至る場合もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習や各種勉強会に参加できるように、事務所に掲示をして受講を推進している。施設内では、月1回の勉強会を行い、非常時の対応を身に付けるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>母体医療機関と連携しながら、年2回災害訓練を実施している。事業所内は、オール電化であるが、漏電等に注意が必要な為、職員による点検はもちろんの事、電気会社による点検も行っている。また、米や飲料水のほか、カセットコンロや懐中電灯等の備蓄もある。</p>	<p>消防署の協力を得て、年2回夜間発生も想定した災害訓練を、協力医療機関と協力して実施し、消火器等の取扱い等の研修も実施している。日頃から避難経路の確認や報道された災害事例を基に意見交換するなど、災害対策の認識を共有している。耐震構造の建物で、太陽光の自家発電装置やスプリンクラー、防火壁、自動通報装置等が設置され、連絡網の整備、設備の定期点検も行っている。災害時の食糧・飲料水の備蓄、ラジオ、懐中電灯、卓上コンロ等も備えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのプライバシーに配慮し対応している。排泄記録には、外部の方が見ても分からないように記載するとともに、外部の方に触れにくい所に保管している。接遇に関しては、外部研修や、内部の勉強会を通してマナー向上に繋げている。	利用者の人格や誇りを損ねるような言葉かけや対応を行わないよう、常に敬愛の気持ちで笑顔での支援に努めており、ホーム独自の研修を実施して認識を共有している。不適切な言葉づかいや対応を確認した時は、その都度注意し合って改善を図っている。居室、浴室、トイレ等はプライバシーが確保された構造で個人記録等も適切に取り扱われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日、何度も居室を訪ねて声掛けを行い本人の意思確認と疎通を図りながら自己決定ができる環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の日課を全てスケジュールに沿ったものとはせず、食事・入浴等もある程度は意向に沿って出来るように、柔軟に対応している。また、家族や知り合いの訪問があった場合も柔軟に対応できる支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	季節や気温に応じたアドバイスを職員がする程度で、本人が好んだ洋服を着てもらおうようにしている。理美容は、月に1回本人やご家族に伺ったうえで訪問理美容で対応している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	主菜・副菜は母体医療機関の管理栄養士が栄養管理をしたうえで調理して、他は利用者や職員が下ごしらえや味見をして一緒に行っている。そうめん流しや商業施設で外食など行い利用者の楽しみとしている。	利用者の好みや形態、栄養バランス、アレルギー、季節感等に配慮した食事を法人の管理栄養士が管理しており、料理のメインは法人母体の医療機関で調理している。行事食（おせち、誕生会等）やおやつ（たこやき、綿菓子）等はホームで調理し準備や後片付け等は利用者も一緒に行っている。レストランでの外食、ソーメン流し、家族との会食、誕生日のケーキ等、食事が楽しみなものになるよう工夫し、食事や水分の摂取量も利用者毎に把握している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事摂取量・補水摂取量を毎日記録して、常に状態観察を行っている。食欲低下や水分不足は健康状態に直結するので、早急に主治医に連絡し指示を仰ぐようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行って頂き、残存機能を最大限に活用していただいている。適時職員が確認をし、必要であれば訪問歯科受診を受け治療・ケア指導を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツは、希望者の方が使用するようにしている。排泄パターンを排泄チェック表にて把握し、日中はトイレへ誘導するといった排泄介護を基本にしている。	利用者毎の排泄パターンや習慣を把握し、昼間は可能な限りトイレでの排泄を支援している。心身の状況に応じた介護用品やケアの方法を、介護計画に反映させて改善に取り組んでいる。便秘の予防に食物繊維や水分の摂取、運動量等に配慮し、主治医にも相談しながら改善を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	勉強会やユニット会議にて認知症高齢者の便秘における影響を学習し理解するようにしている。水分補給、運動を取り入れ便秘予防に努めている。医療機関と相談し、排泄を促すようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	可能な限り入浴形態を、一人一人の希望に沿った方法にしている。週2回は曜日を固定しながらも、利用者が入浴したい時には臨機応変に対応している。状態に応じて、適時足浴をするようにして清潔に努めている。	入浴予定日（週2回）を設定しているが、排泄時の汚染等には、その都度清拭や入浴で清潔を保持し、予定外の入浴希望者にも柔軟に対応している。利用者の好みの温度や時間、習慣に配慮して、ゆっくりした気分で楽しんでもらい、入浴後は皮膚疾患の手当や水分補給を行っている。入浴をためらう利用者には、時間や職員の変更、声かけ等を工夫して利用者が意欲を待つように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	精神的な安定を図れるようにし、外気に触れ日光浴をするなどしている。自律神経のバランス回復やストレス解消が出来る環境作りに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が、服薬カードを見ながら準備し、服薬時カードと薬を職員2人で確認し服薬してもらうようにダブルチェックで行っている。また、残薬数の間違いが無いようにチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎食後の食器拭き、洗濯物・おしぼりのたたみ等、出来る範囲内で家事の手伝いをお願いし、日々のやりがいを感じて頂けるとともに、出来る機能の維持で可能な楽しみ事してもらえるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り、近隣の施設や公園に出かけ四季を感じて頂けるように支援している。個人対応も、希望を出来る範囲内で聞き入れ対応している。また、商業施設やレストランにも出かけたりして、ご自身で選ぶ楽しみを持ってもらえる支援をしている。	利用者の心身の状態や天候等に配慮しながら、周辺の散歩や近くの公園での日光浴、買い物、通院等に出かけている。墓参や一時帰宅、外食等を家族の協力を得ながら取り組み、また、季節の花見（桜、コスモス等）、外食、ショッピング、地域のイベントなど全員での外出も計画して取り組んでおり、利用者の楽しみとなっている。コロナウイルス感染症予防のため、現在は控えており、ホーム内でのレクリエーションを工夫して、気分転換を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>基本的に施設でのお預かり金は禁止している。必要な物・本人希望のものがあれば、施設が立替して購入し、明細と領収書を添えてご家族に送付し、K-N E Tで引き落としにしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>携帯電話の持ち込みは自由で、所持している方も何名かいらっしゃる。外部からの電話も職員が介助し、本人が話す事が出来るように支援している。手紙等も書かれたものを施設側が投函したり支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>事業所は、5階にありエレベーターホール横に菜園スペースを設けている。季節の花や野菜を植えることが出来るようになっており快適に過ごすことが出来るように配慮をしている。冷暖房も気温や体調に合わせて施設側で調整している。</p>	<p>ビルの5階のホームからは、眼下に谷山駅や街並み、遠くに山並み等が望め、リビング等の共有空間は明るく余裕のある広さが確保されている。エレベーターホール横には菜園も設けられ季節の草花や野菜を育てている。リビングの一角に対面式キッチンが設けられ、テーブルセットやテレビ等が動線や利便性を考慮して配置され、随所に利用者の作品等が飾られて和やかで落ち着いた雰囲気となっている。清掃や整頓、空調、衛生面等に細かに配慮して、気持ちよく過ごせる環境となっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共用部分であるリビングでは、個人個人希望する事が出来るように配慮を行っている。施設側でも、本や折り紙、習字、計算と幅広く選択肢を用意し支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>出来る限り、自宅で生活されていた時の雰囲気づくりをして、落ち着いた日常が送れるように支援している。家具等は、自宅で実際に使用していたものを持ち込んで使用してもらっている。</p>	<p>腰高窓のフローリング仕様の居室は、余裕のある広さで明るく落ち着いた雰囲気、エアコン、ベッド、床頭台、洗面台が備えてある。利用者の心身の状況に配慮しながら整理整頓や清掃等を支援し、安全で快適な生活の維持に取り組んでいる。利用者は使い慣れた寝具やテレビ、机、仏壇、家族写真、小物等を自由に持ち込み、また、自身の作品等も飾って、その人らしい和やかで居心地の良い居室となっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>本人の意思を確認するとともに、1人ひとりの出来ること、好きなことを見出し、自立して安全な生活が送れるように支援している。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない